

事例
B-⑦

福岡県・大野城市商工会

地域の元気を作る

「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」の開催

(平成27年9月取材)

1. 面的支援の概要

(1) 活動・支援のきっかけ

① 地域の状況

福岡市と大宰府市の間に位置する大野城市は、福岡市のベッドタウンのイメージが強いが、1350年程前に大宰府防衛のための日本最古の山城「大野城」が築城されるなど、その歴史は古い。しかし、これらの歴史資源は埋もれてしまっており、大野城市は大宰府への通過地点となっていた。当時の大野城市商工会の担当課長はこれを問題と捉え市の担当課に相談、商工会と市とで連携して観光を生み出す活動に取り組むことになった。

② 商工会による活動・支援のきっかけ

活動は∞全国展開事業を活用して行われた。平成23年度は着地型観光に対する見識が深いコンサルタント会社を選択して、大野城を核とした歴史資源の調査発掘や古代をテーマにした食の研究を行った。24年度は体験型観光の事業化に取組み、「三輪車3時間耐久レース」や歴史散策、まち歩きなど、まち全体でイベントを展開する「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」を開催し、3,400名以上の来場者を得た。この内半数以上が市外からの来訪であった。また、ご当地メニュー「大野城 鶏ほっかけ」と焼ドーナツ「大野ジョー ハッピーリング」を開発した。

翌25年度には、前年度をブラッシュアップした第2回パビリオンを開催した。この年度から担当となった経営支援課の江川課長は、ボランティア団体「大野城鶏ほっかけ隊」の組織化や「大野城鶏ほっかけグランプリ」の開催、「大野ジョー ハッピーリング」のイベント出店支援など、開発したご当地メニューの販売促進やPRに力を入れた。また、三輪車レース会場でのフラッシュモブダンス実施などイベントの話題作りを行い、マスコミにアピールした。

第4回目となる「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン 2015」のパフレット。今年はイベントプログラム数が前年より5つ多い27になり、パビリオンが年々定着してきていることが窺える。



(2) 支援概略と特徴

① 継続支援の概略

イベントは継続が要である。大野城市商工会では、∞全国展開事業終了後の平成26年度以降は市と共催の形で市の補助金と自主財源によりイベントを実施、今年度の第4回まで継続開催している。平成26年度からは、パビリオンのパンフレットに広告を掲載することにして、広告協賛金100万円を確保するなど、継続させる工夫を凝らしている。

② 支援手法の特徴

「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」は、そのイベントプログラム数の多さが特徴である。2ヶ月強の期間中に、市のあちこちで様々なイベントが開催される。大人気の「三輪車3時間耐久レース」を含むイベント「輪音祭」の他、商店街での催しや自然・歴史を歩く登山ツアー、体験教室などがリレー式に開催され、市内外の人を飽きさせないようになっている。また今年は新しい試みとして、結婚式場での謎解きゲームを実施する。

この多彩さ、数の多さの秘訣は、イベントプログラムの公募制にある。委員会によるイベントの他に、公募により選ばれたイベント企画がパンフレットに掲載される。こうした個別イベントは、その準備や運営は応募事業者が主体となる。自主的な事業者の活動を促進すると共に、商工会の運営負担を減らす仕組みである。

活動の流れ

H23年度∞全国展開事業
・大野城を核とした歴史資源の調査・発掘や古代をテーマにした食の研究

H24年度∞全国展開事業
・「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」開催
・「大野城 鶏ほっかけ」「大野ジョー ハッピーリング」開発

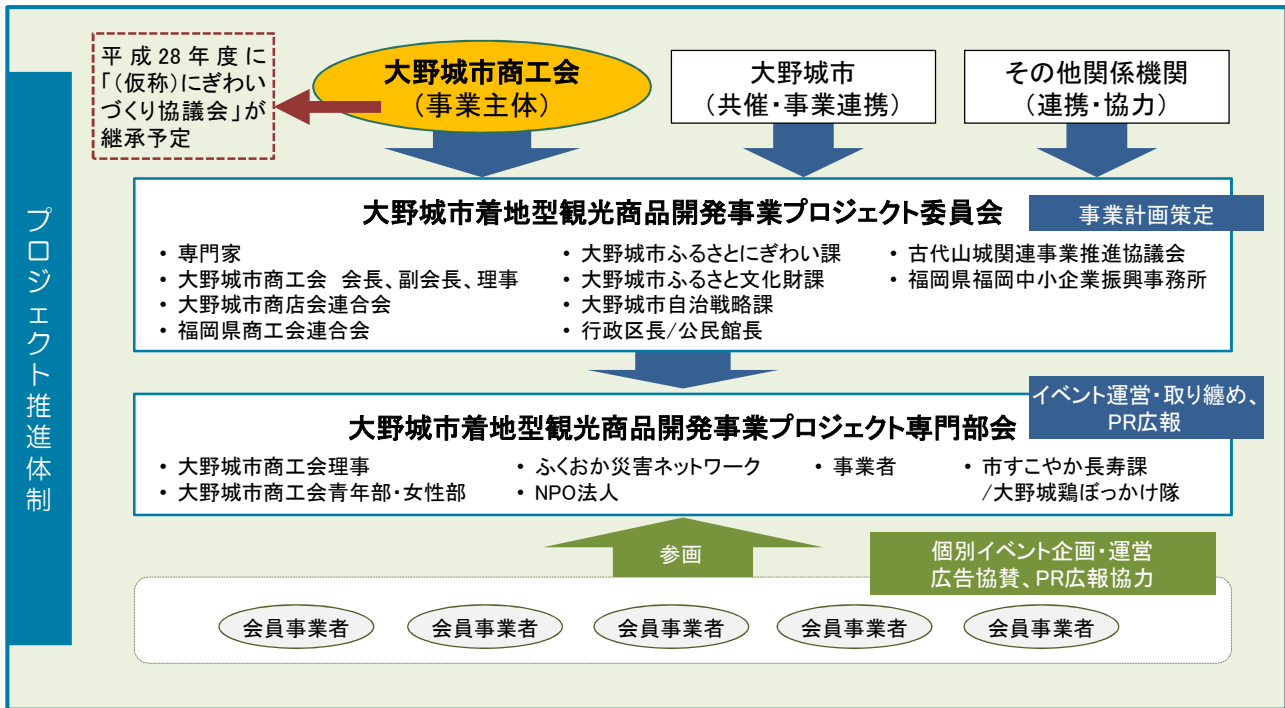
H25年度∞全国展開事業
・「大野城鶏ほっかけ隊」組織
・「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン第2回」プログラム公募制導入

H26年度～「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」を大野城市と共催

H28年度～「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」の運営を「(仮称)にぎわいづくり協議会」が継承予定

福岡県・大野城市商工会
地域の元気を作る「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」の開催

2. 支援組織・地域内連携スキーム



(1) 事業全体の運営スキーム

事業主体は大野城市商工会であるが、プロジェクト体制は、決定機関である委員会と、具体的なプロジェクト運営を担う専門部会とで構成されている。委員会は事業の方針や全体計画、次年度の計画などをまとめ、専門部会の決定等の検討・承認を行う。専門部会では大型イベントの企画運営や事業者によるイベントプログラムの精査・アドバイス等の調整を行う他、パンフレット作成などのPR・広報活動を行う。

(2) 民間事業者の活用スキーム

個別イベントプログラムは、自ら企画を立てて申込む仕組みとなっているため、事業者がイベントの主体者との位置付けである。商店街やNPOも例外ではない。その他、開幕イベントを自動車学校と共催したり、ご当地グルメの振興には「大野城 鶏ぼっかけ隊」の有志が自主的に活動するなど、民間の力を活用しながら、行政や公的な支援に頼りきらずに地域一体で盛り上げる「パビリオン＝祭典」を作っていくスキームが導入されている。



写真左:ご当地メニュー「大野城 鶏ぼっかけ」。
写真中:鶏ぼっかけを提供するお店「馬鹿盛ぼんぼこ」の黒岩店主(真中)を囲む商工会の江川課長(左)と大歯係長(右)。黒岩さんは「大野城 鶏ぼっかけ隊」(写真右)のメンバーでもある。
黒岩さんや(右列写真の)南福岡自動車学校の池崎さんを見ても分かるように、大野城市には元気で明るい事業者が多い。



開幕イベント「輪音(わおん)祭」を商工会と共催する南福岡自動車学校の販売促進課・池崎さん(左)と大歯係長。
南福岡自動車学校は、地域貢献活動の一環として、イベント会場を提供し当日の運営を引受けるなど、全社一丸となって「おおのじょう まちなかわくわくパビリオン」を盛り上げてくれる重要なパートナー企業である。



三輪車で自動車学校の教習所サーキットを走り周回数を競う「三輪車3時間耐久レース」。年々人気が出て、市外からの参加者も増加しているという。

福岡県・大野城市商工会

地域の元気を作る「おおのじょう まちなかわくわくパピリオン」の開催

3 成果・地域への影響

① イベントの定着化と大野城市のイメージアップ

平成24年の開始以来4回目を迎え、「おおのじょうまちなかわくわくパピリオン」はすっかり大野城市の秋の風物詩となった。名称の“パピリオン（祭典）”に相応しく、約2か月半にわたり市内のあちこちでイベントが開催され、市内外から多くの来場者を集めている。来場者は、平成23年度の3,400名から平成26年度の7,800名へと倍増した。また「三輪車3時間耐久レース」は、毎年メディアに取り上げられるほどの人気イベントとなった。ここ数年で、「大野城は元気がある」というイメージが定着してきている。

② ご当地メニューの開発

「大野城 鶏ぼっかけ」はぼっかけ隊の熱心な活動もあって学校給食にも採用されるなど、ご当地メニューとして定着した。「大野ジョー ハッピーリング」もイベント催事などへの出店を重ね、報道各社から数多く取り上げられて認知度が高まっている。鶏ぼっかけ提供店舗は現在11店舗で26年度の売上実績が320杯、ハッピーリングは4店舗の製造販売で同年19,000の個包装販売枚数を数え、順調な売上状況である。

③ 事業者の元気を促進

「おおのじょうまちなかわくわくパピリオン」は公募制を採っているため、参加したい事業者は自らアイデアを出し、自ら運営を行う必要がある。イベントの集客が少なければお店や商店街のPRに繋がらないため、各自工夫が求められる。商工会の大歯係長は、これらの仕掛けが効を奏して、元気のある事業者が徐々に増えてきていると感じている。これら積極的な事業者がパピリオン事業を通して知り合うことで、異業種同士の連携も生まれている。

「大野城 鶏ぼっかけ」のスタンプラリー（右）と、「大野ジョー ハッピーリング」（下）。大野城が円形であったことから、円の形のドーナツが選ばれた。大野ジョーくんは、大野城市の人気キャラ。



4 今後の計画

① 運営主体の継承

平成28年度からは、市で新たに立ち上げる「（仮称）にぎわいづくり協議会」が本事業を継承する予定である。

27年度は、この目的のため準備委員2名を雇用して1年かけて引継いでいるところである。商工会としては、継承後は、商工以外の市民団体等も参画する地域活動として発展していくことを期待している。

② 個別イベントを開催する事業者支援

江川課長と大歯係長は、次年度以降は、イベントプログラムを企画・運営する事業者への支援を厚く行うつもりである。パピリオン参加が契機となって新しいことに挑戦する事業者の後押しをすることで、「（仮称）にぎわいづくり協議会」への側面支援を行うのが、商工会の役目と考えている。また、こうした活動の中から、地域活性化を担うリーダー人材を発掘・育成したいと考えている。

5 地域経済活性化のポイント・商工会（指導員）の役割

【ポイント】

- ① 【行政（大野城市）-商工会-事業者】3者による連携で、地域全体を活性化させている。
- ② 商工会や行政だけの負担にならない様、個別のイベントプログラムを公募制にして、事業者やNPOを巻き込む仕組みを作った。この仕組みにより、イベント数とイベント内容の多彩さを確保している。
- ③ 平成28年度の協議会への事業継承は、活動開始当初から計画されており、中期的なビジョンの下、事業を進めてきている。

【商工会（指導員）の役割】

- ① 行政（大野城市）との強い繋がりを作り、連携活動とする。
- ② 地域を動かせる熱意のあるキーパーソンを見つけ、一緒に活動を進める。
- ③ 事業を進める過程で、地域の面的な活性化に繋がる事業者や団体の間のネットワークを構築する。